

令和4年度 第1学期終業式 式辞

令和4. 7. 20

この数日は雨模様が多く梅雨に逆戻りのようなお天気でしたが、猛暑、酷暑と呼ばれるような本格的な真夏が来ています。

4月の一学期当初、本校の校訓「文・武・心」の三道三立の実現に向かって挑戦しようとしてきましたが、皆さん一人一人、一学期の自己評価はどうでしょうか。

令和4年度、本校は、3月に卒業した先輩たちの素晴らしい進路実績の流れを受けてスタートし、「武」である部活動の運動部では、県総体において、300名にも迫ろうかという出場人数を果たし、四国大会の出場選手は、水泳部も合わせると100名を超え、今年度地元で開催されるインターハイには、卓球部男子団体やハンドボール男女、水泳部のリレー種目などの活躍により県立学校では最多の50名を超える選手が出場します。

その他にも先日の壮行会で紹介したとおり、吟詠剣詩舞部が東京で開催される全国高等学校総合文化祭に出場するほか、以前にも紹介したとおり、地元で開催されるインターハイを盛り上げ、支える立場で高校生活動に参加している学校推進委員の生徒の活躍は、顕著でありました。

松山北高校の生徒の皆さんは、先ほど紹介した生徒に限らず、様々な場面でボランティア活動などを積極的に展開しており、地域に貢献し、感謝される存在となっています。皆さんの活動を通じて、松山北高校の存在感がますます大きくなっていくことを考えるだけで、松山北高校に所属する仲間として嬉しく、また、誇らしく感じています。皆さんの地道な活動に心から感謝しています。そんな北高生の皆さんに、欲張りとしりながら、さらに望むことを話したいと思います。

一つは、松山北高校生である皆さんは、地域や中学生、また、小中学校も含めた他校の先生方からは、皆さん自身が思っている以上に「注目されている」つまり「見られている」ということについて、話したいと思います。この話を聞いて、自転車通学許可のステッカーをはぎますか。松山北高校と名前がある部活動のバッグで通学することをやめますか。同じく学校名の入った部活動のジャージをもう着ませんか。そして、注目されているのは、地理的にも範囲が広いということもよく認識してください。学校周辺だけではありません。松山市周辺の伊予市、砥部町、北条方面まで、通学の方向や態度などから、ほぼ北高生として認知されているようです。以前にも話しましたが、松山北高校は礼儀正しい、挨拶がいい、公共交通機関や自転車での登下校のマナーもいい、と地域の方々からお褒めの言葉も多数聞かれます。一方でお叱りの厳しい指摘もありますが、今後も、松山北高校生として、常に校訓「文・武・心」の心を磨いて「凜とした」意識で行動してもらいたいと願っています。

二つ目に、皆さんには、自分で考えている以上に、また、先生方が考えているよりももっと「伸びしろ」があるということを認識してください。皆さんは、まだまだ進化の途中であるということを強く意識して、謙虚な姿勢で努力すれば、高い目標にも届く可能性があるということです。

そのために、24時間ずっと張り詰めた緊張感を持った生活をする必要はありませんが、時間をかけてコツコツ積み重ねる努力をしてもらいたい。特に3年生には、これから自分の進路実現に向かって、「努力をする、努力ができる」という才能を磨いてもらいたいと思います。松山北高校生だから努力を实践できるのです。

県総体が終わって、3年生は体育館で全校集会をしました。あれから約40日あまりが過ぎました。3年生はこの40日間、振り返ってどうでしたか。次に40日が過ぎればいつですか。そして次の40日が過ぎれば中間考査も終わって大学入学共通テストの受験手続きは終わっている時期です。あっという間に時間は過ぎてしまいます。来年1月、どのような姿の自分がいますか。自分が望むような結果が欲しければ、3か月後、1か月後まで、どのような生活をすべきか、イメージして、受験までにできることは何でもする覚悟で臨んでください。そんな3年生の努力している姿が、松山北高校の良き伝統、財産として、次の世代に継承されることを願っています。

終わりになりますが、2学期は大きな学校行事「体育大会」があります。3年生の強いリーダーシップの下で、この大きな行事を成功させるため、OnとOffを見事に切り替えながら、授業も学校生活にも集中できる成長した姿を期待しています。

暑さもコロナ禍での生活も厳しいと思いますが、この夏を乗り切り、身体も心も元気な姿で2学期を迎え、またお会いできることを祈って、式辞とします。